



父母と学会だより

No. 61 研修報告号～R7年12月発行



施設内研修

R7年10月27日

ハラスメント対策研修

担当: 佐藤・鈴木(美)

令和4年4月1日よりパワーハラスメント防止措置が義務化された為、毎年周知・啓発活動としてハラスメント研修を行っています。今回の研修では実際に職場内でハラスメントが発生した場合、ハラスメント相談窓口がどのような流れで対応するのかを確認しました。また動画でハラスメントの被害者になった場合の対応の知識を深めました。

まず相談窓口へ報告する、訴える場合にも必ず必要な物は証拠です。自分自身を守るためにまず客観的な証拠(メール・メモ・録音・動画)を残すことが大切です。また、就業規則にハラスメントに関する規定を整備する事も大切です。相談したがうやむやになって何もしてもらえず結局環境が変わらないなどがないように職場環境を改善していく。職員を守るためにも取り入れて行きたいと思います。

文責 佐藤 潤



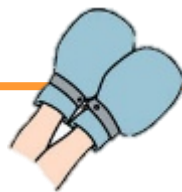
施設内研修

R7年10月20日

身体拘束適正化研修

担当: 塩見・栗田(百)

令和7年10月20日に施設内研修で「身体拘束」について学びました。身体拘束と聞くと身体をひもやベルトで縛ったり、個室に閉じ込めて施錠をしたりするのが思い浮かびますが、身体を拘束するフィジカル以外にも種類があります。



＜身体拘束3つのロック＞

- ① フィジカルロック…紐やベルトなどで物理的に拘束する行為。
- ② ドラッグロック…薬物の過剰投与や不適切な投与によって、利用者の行動を抑制する行為。
- ③ スピーチロック…言葉によって利用者の身体的、精神的な行動を抑制する行為。

今回の研修では介護施設での身体拘束になるものと、身体拘束ではないが不適切支援と思われるものの具体例を挙げながら身体拘束について職員同士でディスカッションを行いました。身体拘束をゼロにするためには1人1人が身体拘束や不適切支援について判断出来る知識を持つだけでなく、職場全体で対応できる体制を作る事です。利用者さんがゆいまあるに気持ちよく通えるように取り組んでいきます。

文責 栗田 百江

てんかん基礎講座（オンライン講座）

講師：東小金井小児神経・脳神経内科クリニック

院長 生田 陽二氏

てんかん基礎講座をオンラインで受講しました。この講座ではてんかんの基礎知識、発作の介助、薬物療法、外科療法、てんかんと合併することの多い発達障害、精神科的障害、学校生活について、てんかんの専門医が講義を行いました。基本的な知識や介助、治療方法からてんかんの最新情報までわかりやすく説明してくださいました。てんかんのある方は日本ではおよそ100人に1人と推定されていますが、発作の症状や頻度、程度は人によって異なり、その方に合った介助方法や治療等が必要になります。てんかんは適切な医療を受けることでおよそ7割以上の方が発作をコントロールできる、とのことで、治療の際には主治医とよく相談してほしいとのことでした。

講義を通し、てんかんについて正しく理解し、個々に合わせた支援をすることが大事だということがわかりました。てんかんのある方が安心、安全に生活できるよう、今回の講座で学んだことを生かして支援をしていきたいと思います。

文責 塩見 清香



施設内研修

R7年11月17日

「休み時間に出来るゲーム、レクリエーション」

担当：鈴木(美)・和久井

今回は、利用者さんの余暇活動について研修発表を行いました。
ゆいまあるには毎週月曜日の午後、朗読やレクリエーションなどの活動があります。
毎回、紙芝居を読んだり色んなゲームを行い、利用者さんも楽しみに参加してくれます。
まだ少し「時間があるけど・・・何をしようかな？」と言う時5分あればできるレクリエーションがあればと思い、簡単で体も動かせるゲームを考えてみました。

①色紙を使った玉入れゲーム

カゴが2段で、座っている人も入れられる。
下の玉を拾って腕を伸ばすので屈伸運動にもなります。

②フルーツ合わせ

マグネットがついたフルーツのカードを探して、集めて
同じところに重ねます。
色や名前なども覚えながら行います。



文責 鈴木 美由起

季節に合わせて新作も作成中です。

